



## 地域ブロック情報

日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今年度から、各地域ブロックの活動について順次ご紹介していきます。

今号は、関西地域ブロック、中国・四国地域ブロック、九州地域ブロックをとりあげます。

### 関西地域ブロック から

関西地域ブロック担当理事

松端克文(桃山学院大学)

関西地域ブロックでは、他のブロックと同様に毎年「年次大会」を開催しています。今年度は、2015年3月21日(土)に、花園大学社会福祉学部(京都市)において開催いたします。「児童虐待の現状と課題について」をメインテーマにし、児童虐待問題に関する鼎談を実施します。また、大会の午前中には、自由研究発表の枠を設けており、毎年8名～12名程度の発表が行われています。詳細につきましては、本年1月5日に発行いたしました「関西社会福祉学会ニュースレター」(2014年度2号)に掲載しています。関西社会福祉学会・関西地域ブロックの会員には郵送しておりますが、日本社会福祉学会のホームページの「地域ブロック情報」にもアップしておりますので、そちらをご覧ください。

関西地域ブロックの活動といたしましては、年次大会の開催と年2回のニュースレターの発行に加えまして関西独自の活動として、2004年5月より年3回のペースで「若手研究者・院生情報交換会」を開催しています。

今年度も3回目(通算33回目)の若手研究者・院生情報交換会が、2015年3月8日にキャンパスプラザ京都6階・龍谷大学サテライト教室(第7講習室)におきまして、「ソーシャルワークと社会正義—日本の社会福祉は貧困にどう対峙するのか—」が開催されます。

毎年3回開催しているうち2回は、関西社会福祉学会(関西地域ブロック)の理事・監事(運営委員)が中心となって、それぞれの研究テーマに即して開催していますが、1回は大学院生がテーマや人選をする院生企画の研究会にしています。3月開催の情報交換会は、この院生企画によるものです。

こうした活動があることから、他の6つの地域ブロックで発行されている機関誌については、あえて発行しないということがその時々理事会・運営委員会で確認されてきたのですが、今年度末(3月)に『関西社会福祉研究』を創刊いたします。

昨年度末の年次大会の際に発行する旨の案内をし、年度当初より投稿を募集いたしましたところ 13 本の投稿がありました。現在、査読・選考も終了し、最終の編集作業に入っています。また関西の特徴としましては、編集委員会で特集を組み、「依頼論文」として、今回は歴史のジャンルから小笠原慶彰会員（神戸女子大学）、原理として児島亜紀子会員（大阪府立大学）、政策実践として片岡哲司会員（大阪府社会福祉協議会）に論文の執筆をお願いしています。

さらに、池田敬正会員（京都府立大学名誉教授）へのインタビューもあります。関西では、1954 年の全国学会が設立される前に全国学会に先駆けて「関西社会福祉学会」が設立されており（1950 年）、それ以前も含めてさまざまな研究の蓄積があるため、今後シリーズで企画している同様のインタビューは、そうしたことを確認し、継承していこうという趣旨でもあります。

こうした関西社会福祉学会・関西地域ブロックをひとつのプラットフォームとして、関西の地域性を活かした地道でかつ活発な研究を展開していければと思います。

## 中国・四国地域ブロック から

中国・四国地域ブロック担当理事

横山正博(山口県立大学)

中国・四国地域ブロックは、2015 年 1 月 5 日現在会員数 434 名、会員総数の約 9%を占めています。9 県ありますが、会員は岡山県と広島県に集中しています。最も少ないのが鳥取県で会員数は 7 名です。

ブロック活動の 3 本柱は、ブロック大会・総会、ブロック機関誌「中国・四国社会福祉研究」機関誌の発行、会報の発行です。昨年度からは、新たに、若手研究者・大学院生の育成事業を開始し、何とか軌道に乗るような形になりました。2014 年度には、ブロック大会のプログラムとして位置づけましたが、来年度からは充実を図り、ブロック大会とは別に単独で企画することとしました。また、かねてより議論をしてきました中国・四国地方特有の福祉問題に対する会員連携の研究活動も具体化しつつあります。

2015 年は、おそらく団塊の世代の会員が大学等をご定年になる年となります。引き続き、会員として、後進の育成にご尽力いただきたく思っております。また、ブロック機関誌第 4 号が 3 月に発行されます。投稿数は平均すると 4 編程度にとどまっています。会員のさらなる投稿数を期待しております。特に、ブロック大会で発表された研究をまとめていただき、投稿していただければと思います。

中国・四国地域ブロックの活動で最も大切にしていきたいと考えているのは、年に 1 回会員が一堂に参集する機会であるブロック大会と総会です。今年度で 46 回（担当校：県立広島大学）を迎えました。ドイツアーヘン市教育研究所所長アンスガール・シュトラッ

ケ・メアテスをお招きし、「ドイツにおける発達障がい児のインクルージョン」と題して基調講演いただきました。シンポジウムでは、「子ども達の生き生きと育つ権利を保障するために—教育・医療・福祉のコラボレーション—」をテーマとして、各実践現場の方々に現状と課題を報告していただきました。

来年度は、愛媛大会として聖カタリナ大学を担当校として松山市で開催します。大会テーマは「社会福祉法人による地域貢献のあり方を問う」（仮題）、開催日は2015年7月4日（土）、会場は聖カタリナ大学です。中国・四国地域ブロックの会員はもちろんのこと、他のブロックの会員もぜひともご参加ください。

最後に、中国・四国地域ブロックの会員へのお願いです。ブロック大会以外のお知らせは、基本的には電子メールで案内させていただくこととなっております。メールの登録をされていない会員におかれましては、ぜひとも登録をしていただきますようお願い致します。また、中国・四国地域ブロックのホームページには、ブロック機関誌、会報等のバックナンバーを掲載していますので、ぜひともご覧下さい。

<http://www.socialwork-jp.com/csssw/index.html>

## 九州地域ブロック から

九州地域ブロック担当理事

倉田康路(西九州大学)

九州地域ブロックの会員は、500名を超える会員数を数え、地域別では関東地域や関西地域、中部地域に次ぎ、全国で4番目に会員数の多い地域ブロックとなっています。

九州においては、人口比率からして福祉系の大学などが最も多く設置されているということや、それに比例して社会福祉の研究者、教育者がたくさん存在するということが会員数に反映されていると思われませんが、支え合い、生きていくということへの理解や共感、あるいはその価値を尊ぶという風土、環境、歴史なども影響しているのではないかとも思っています。

さて、九州地域ブロックにおきましては、毎年度開催される九州部会総会にて承認された事業計画に基づき、研究大会をはじめとして、機関誌「九州社会福祉学」の発刊などを中心に活動を行っています。

研究大会においては、これまでに55回の長きにわたって開催され、毎年、100名前後の会員が集まり、大会テーマに応じた基調講演やシンポジウム、研究発表が行われています。本年度（平成26年度）は鹿児島国際大学が開催校となって「保健・医療・福祉の連携から統合へ」を大会テーマに、基調講演「生涯発達ダイナミクスと保健福祉学」（安梅勅江先生）やシンポジウム（テーマ「保健・医療・福祉の統合と課題」）、そして、22名の会員による自由研究発表が行われました。新年度（平成27年度）には、九州保健福祉大学（宮崎

県延岡市) が開催校となって「社会的孤立と見えない貧困」を大会テーマとして、平成 27 年 6 月 20 日、21 日に開催されることとなっています。以降、平成 28 年度 (第 57 回大会) 長崎ウエスレヤン大学 (長崎県)、平成 29 年度 (第 58 回大会) 九州看護福祉大学 (熊本県) の開催計画が立てられています。

機関誌「九州社会福祉学」は、これまでに 10 号が発刊され、特に若手会員の研究発表の場として年々投稿数が増えている状況です。ちなみに過去 5 年間では、第 10 号 8 編、第 9 号 9 編、第 8 号 7 編、第 7 号 9 編、第 6 号 8 編の掲載がありました。今年度 (第 11 号) も既に数多くの投稿があり、現在、編集規程に基づく編集作業が行われています。

これら研究大会の開催や機関誌の発行に加えて、一昨年度には九州の会員 200 名近くが 3 年をかけて作成した社会福祉の辞典、「21 世紀の現代社会福祉用語辞典」(九州社会福祉研究会編、田畑洋一ほか編集代表、学文社) が発行されました。現在、九州の社会福祉士養成校などにて活用されております。

現在、九州部会においては九州部会運営委員会選挙にて選出された 5 名の運営委員および地域ブロック代表にて事業が企画され、運営が行われています。九州の特性を活かし、誇りをもって、これからの活動をすすめていかなければならないと考えています。会員の皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。